

持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画（素案）

1. 来訪者管理基本計画とは

1. 1 来訪者管理の必要性

西表島においては、観光業が盛んに行われる一方で、観光に伴う自然環境や住民生活への影響も生じている。平成 29 年に実施された世界自然遺産登録に関する住民アンケートでは、利用者の増加等に起因する自然の劣化、インフラの不足、生活への影響などを懸念・心配する意見が多く見られている。

また、西表島を含む世界自然遺産候補地に対する IUCN の評価報告書においても、収容力に応じて適切な訪問者管理メカニズムを設けるべきことなどが指摘されている。これを踏まえて、改定された包括的管理計画の基本方針では、適切な観光管理の実現に向けて 4 地域それぞれの観光管理計画を策定することが示され、推薦地、緩衝地帯、周辺管理地域の各地域区分ごとの観光利用の受入れ方針として下図のような概念が設定された。

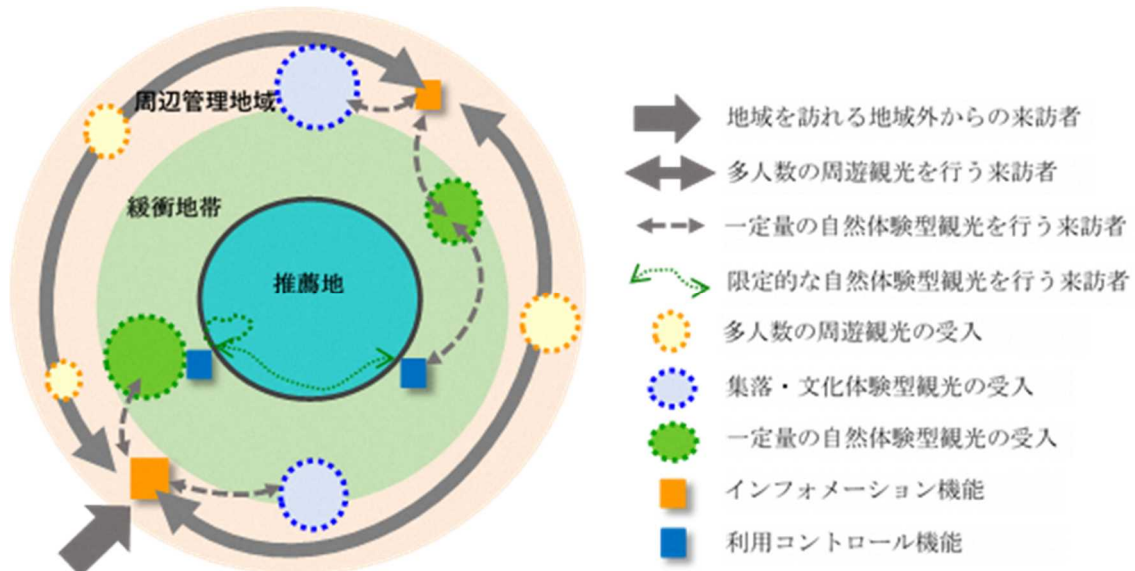


図 1 地域区分ごとの観光利用の方針【概念図】

1. 2 ヒアリング及び作業部会で得られた意見の概要

西表島における持続可能な観光に係るヒアリング結果と作業部会で得られた意見の概要を立場ごとに以下に示す。

<地元住民代表>

- ・ 持続的にするためには観光客を減らすしかない。
- ・ 観光客の増加によってゴミの問題、トイレや下水の問題が生じている。
- ・ 集落の中を水着で歩いたり神聖な場所に立ち入ったりするマナーの悪い観光客がいる。
- ・ 観光客が多くて定期船が混雑し、生活に支障をきたすことがある。
- ・ 観光客が怪我をした際の消防団の出動が負担となっている。
- ・ 観光の推進よりも生活基盤や受け入れ体制の整備が必要。
- ・ 伝統文化や自然を守るための体制や西表島の特別なルールが必要。

持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画（素案）

- ・道路の草刈りができておらず、イリオモテヤマネコが轢かれている。
- ・入島税を導入して観光客を抑制し、収入を山の整備や県道の草刈りに使えると良い。
- ・自然を使って観光事業者のみが利益を得ており、住民は不利益を被っている。
- ・港に市場を作るなど、観光によって地域に恩恵が入る仕組みがあると良い。

<有識者>

- ・収容力の人数を決めることにはあまり意味がない。数字を出すとしてもあくまでもモニタリングを行って管理していくための目安である。
- ・収容力の数字を決めるよりも、西表島の価値に対する影響・問題を整理して、それが起きないように管理することが重要である。
- ・船や宿泊など物理的な面、混雑度など心理的な面から収容力の数字を出すことはできるが、生態系への影響から収容力を出すのは難しい。
- ・具体的な問題・影響について、フィールドごとにどの程度の人数でどのくらいの問題・影響が出るか考えていくことはできる。
- ・入域料の徴収の目的には、環境整備等の資金確保と、料金の設定により入域人数を抑制することの2つがある。西表島では、後者の目的では非常に高額となるため難しい。
- ・一般的に利用人数の抑制や分散を期待するなら、入域料だけでなく、交通手段・宿泊施設の容量などの物理的な人数規制を組み合わせるのが効果的である。
- ・入域料を導入する場合には、島の入り口で強制徴収することが望ましい。
- ・入域料の使途として、制度の運用管理、住民のインフラ整備、自然環境保全等が挙げられる。
- ・西表島の観光客アンケートでは、入域料を自然保護に使ってほしいという意見が多い。
- ・入域料については住民の意見を聞きながら検討を進めるべきである。

<観光・交通関連団体>

- ・入域者数は、観光形態（周遊型、体験型、日帰り、宿泊）や季節により状況が異なる。
- ・周遊型観光は減少傾向にあり、人数制限はフィールドごとに行ったほうが良い。
- ・離島ターミナルなどの交通拠点で多言語でルールを周知できると良い。
- ・石垣島拠点のパック旅行が多いが、西表島から主導的に観光メニューを提案すべき。
- ・地元にお金を落とすために、交通、宿、飲食など総合的な取組による宿泊推進が必要。
- ・入域料については、誰からどこでいくら取り、何に使用するのか検討が必要。
- ・トイレなどの施設整備が必要であり、その際には維持管理体制を併せて検討すべき。

<地元関係団体>

- ・収容力の数値を出すのならば根拠を整理すべき。水やゴミなどの負荷の観点から、観光形態（周遊型、体験型、日帰り、宿泊）や季節による違いも考慮して設定すべき。
- ・滞在型観光では地元にお金が落ちるのはよいが、宿泊により環境負荷は増える。
- ・入域料は入島者から船で強制的に徴収し、住民は除外すべき。
- ・入域料の使途として、海岸清掃と草刈りとトイレの管理は優先順位が高い。
- ・なにもないのは西表島の良さでもあり、本島と同じような整備は不要。

持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画（素案）

- ・ 軽トラ市の開催や地元農産物を活用した商品開発が地域への波及に有効ではないか。

<行政機関>

- ・ 収容力の数値を出すのならば根拠を整理すべき。観光形態（周遊型、体験型、日帰り、宿泊）の違い等も考慮して慎重に検討すべき。
- ・ 西表島の自然環境やその保全のためのルールを伝えられる施設があるとよい。
- ・ 利用者負担は観光事業者から取る方法と訪れる方から直接取る方法が考えられる。
- ・ ブランド化や認証により世界遺産の保全と地域産業振興を両立できるとよい。

<作業部会>

- ・ 宿泊容量や飲食店は現状でも不足しているが、地元は人材不足や高齢化のため需要に応じて受入体制を強化することができない。
- ・ 行政が施設整備を行う場合には、事前に現場の状況や問題点をしっかり把握したうえで、問題解決につながる有効な整備内容を検討する必要がある。
- ・ 環境保全のための入域料に関しては来訪者の理解は得られると思うが、簡潔な徴取方法、用途の明確化、不平等感の排除等に関して十分な検討が必要である。
- ・ 観光事業による地域社会への貢献の実態については、島民に正確な情報を伝えて理解を得ていく必要がある。
- ・ 来訪者による迷惑行動の抑制には、島の文化や生活、しきたり等に関する情報提供やルールの周知が必要である。
- ・ イリオモテヤマネコに関しては、観察ツアーの規制、新たな交通事故対策の検討、来訪者に存在をアピールする手段（見せ方）の検討などを進める必要がある。

1. 3 現状における問題点・課題

西表島における観光を取り巻く状況には、現状において以下のような問題点や課題が存在する。

※ここで挙げた問題点や課題は主に西表島全体及び周遊型観光等を対象としたものであり、世界自然遺産の推薦地や緩衝地帯を中心に行われている自然体験型の観光に関しては、別途、エコツーリズム推進全体構想において取り上げることとする。

【環境】

- ・来訪者数に応じたインフラの整備・管理への対応は財政的に厳しく、一時的に増加する環境負荷に十分に対応できていない。
- ・来訪者の観光形態の変化や道路整備により車の通行量やスピードが増加し、イリオモテヤマネコ等の希少な動物のロードキルの影響が懸念されている。
- ・来訪者による森林内への立入りや植物の採取等の増加により、希少な生物の生息・生育環境への影響や個体数の減少等が懸念されている。

【住民生活】

- ・西表島の希少な生物や豊かな自然環境とその自然を守りながら共に生きる知恵や文化が西表島の観光資源となって多くの来訪者を惹きつけてきたが、一方で観光によってその価値が損なわれることが懸念されている。
- ・観光のピーク期に定期船が満席となり、島民の定期船利用に支障をきたす状況が発生している。
- ・来訪者による集落内の水着での歩行、個人の敷地や神聖な場所への立入、集落通過時の車の減速不足などにより、島民が不快な思いや危険を感じている。
- ・観光による地域経済への波及効果が感じられないなど、地域社会への貢献が十分発揮されていないという意見がある。

【経済】

- ・過去最高の入域者数を記録した平成 19 年には、島内の観光事業者の受入体制やトイレ等の観光インフラの容量を大幅に超える来訪者が訪れたことにより、西表島の自然環境、島民生活への悪影響だけでなく、来訪者の快適性や満足度の低下を招いた経験を有する。
- ・西表島における観光は、送り手である島外の観光事業者やエージェントの要求に応じて無制限に来訪者を受入れてきた経緯がある。
- ・西表島への入域者数は、最近の 10 年間は比較的短いスパンで増減を繰り返しており、その変動幅も大きく、外部条件に左右されやすい傾向がみられる。
- ・宿泊容量や飲食店は現状でも不足しているが、地元は人材不足や高齢化のため需要に応じて受入体制を強化することができない。

2. 西表島における来訪者管理の基本的考え方

2. 1 目標

本基本計画は下記に示す目標を掲げ、その達成に向けて目指すべき基本方針を設定し、個々の取組を包括的・計画的に実施していくために策定するものである。

**観光による環境・住民生活への影響を抑制するとともに、
観光による地域社会への波及効果をさらに広げ
誇りある島の自然と暮らしを将来にわたって守り受け継ぐ。**

2. 2 基本方針

上記の目標を達成するために実施すべき取組みは、以下に示す5つの基本方針に基づいて抽出することとし、個々の取組については、地域住民等の理解を得たうえで、世界自然遺産推薦地の管理機関、観光事業者、地域関係者等が連携・協力し、明確な役割分担のもとで実施していくこととする。

方針1：西表島の受入可能な来訪者数の調査・設定

西表島における受入可能な来訪者数を観光形態（周遊型観光、体験型観光、日帰り観光、宿泊観光等）、季節、廃棄物の処理能力、生活水の量など、様々な観点から調査・設定する。

方針2：西表島主導の来訪者管理体制の構築

来訪者の入域や島内での行動を適切に管理・誘導していく仕組みを作る。送り手側である島外の観光事業者ではなく、受け入れ側である島内事業者が主導的に来訪者の入域管理を担い、継続的なモニタリング結果に基づいて、観光による環境や住民生活への影響を抑制していく。

方針3：環境負荷の低減のための来訪者費用負担の導入

西表島では来訪者の理解と協力を得たうえで来訪者費用負担の考え方を導入し、観光に伴って増加する環境負荷に応じた負担金を来訪者から徴収する。そして、その資金を活用して必要な環境保全のための費用に充当していく。

方針4：島の自然・静かな生活・歴史文化への島民の思いを来訪者へ積極的に発信

来訪者自身が西表島における環境や住民生活への影響を意識し、地域の歴史・文化を尊重するような普及啓発に取り組む。

方針5：観光関連産業が地域社会や経済に貢献していく仕組みの構築

西表島の観光に関わる事業者の地域社会への貢献度を向上させ、広く島民に周知していくとともに、観光関連産業による経済効果が地域社会全体に波及する仕組みを構築することにより、観光によって島の暮らしを支えていく。